

発達障害者へのケアを学ぶ @ニュージーランド 1月9日～14日

松本彩伽（健康科学コース3年）

渡航先での活動内容

①Autism NZ

施設の中の部屋を実際に見せて頂きながらお話を伺った。その名の通り、自閉症を持つ人のための施設で、そうした人達にプログラムを提供したり、単に情報や、人と楽しく話す場を提供したり、といった役割を果たしている。所謂、自閉症を持つ人々のためのオアシス的存在。職員のオフィスの本棚には自閉症に関する本がずらりと並び、プログラムが実際行われる広い部屋と、その隣には、疲れたプログラム参加者が休憩するための小さな部屋があった。自閉症の人を家族に持つ人のための講座や食事指導も行っている。



②Spectrum NZ Residential Home

Spectrum Care NZという機関にお世話になった。発達障害者の子供達のためのHoliday programを運営するだけでなく、Residential Home Care Centerといい、実際に数名の発達障害者を一緒に住ませ、職員が交代制でその家に滞在し面倒を見ながら仕事をする施設も運営している。そのResidential Home Care Centerに連れて行って頂き、そこに住んでいる発達障害者の女性達と話す機会を得た。

Residential Home Care Centerは、一見するとごく普通の家で、中に入っても広々として快適そうな内装だったが、あらゆる部屋に鍵が取り付けられていたり家事の分担が分かりやすく表示されていたりと工夫が凝らされていた。

そこに住む女性達が、生き生きと自分たちの生活や趣味について語っているのが印象的だった。



別日に、Holiday programにも実際に参加もさせてもらった。内容はボウリングだったが、全員を連れて行き、ボウリング場でも全員になるべく楽しんでもらうようにするだけで一苦労だった。しかし、それぞれのメンバーのクセを改善する特別な道具を作ったり、ちょっとした工夫で本人の振る舞いを大きく改善できる、と職員さんが語っていたのが印象的だった。

③Recreate NZ

MOXIEという、発達障害を持つ若者向けの就職支援プログラムにボランティアとして参加した。農場に行って実際に作業をする中で、障害者の方と真の意味での交流ができた。私でも助けられることがあるのだと、自信になった。



④Raukauri Music Therapy Center

音楽療法士の方に施設の中を見せて頂き、一時間程お話を伺った。発達障害を持つ子供達などに音楽療法を施しているという。彼らは、音楽と触れているとき、日ごろのストレスやプレッシャーから解放され生き生きとし、普段見せないような表情を見せてくれると言う。

目的を達成できたか

目的は、「発達障害者へのケアの先進国であるニュージーランドでケアの現場を見る」ことでしたが、それは確実に達成できました。現地の方々のご厚意により、私が当初想像していたよりも遥かに広く、深く、現場を見ることができ、ケアをされる側・する側双方の方々と様々な話をする中で色々と考えさせられました。

グローバルな視点とは何か

グローバルな視点とは、物事や人を見る際に、国や地域の違い、もしくはそれらに基づく既定概念にとらわれることなく、本質をしっかりと見極めることができる視点だと思います。

将来の進路決定へどう影響したか

私は、学部を卒業したら院進はせず、就職するつもりなので、「院に行ったらこんなことを研究したい」といった気持ちを抱くことはなかったにせよ、卒業研究で、やはり発達障害にまつわることを研究したいと改めて思いました。また、就職するにあたって、人のために役立つような、人々の生活を向上させられるような仕事をしたいという思いを強めました。

目的以外に学んだ点、反省点

ケアをするにあたり、国籍や母国語が何であるかは関係がないということ。相手のことを思いやる気持ち、理解しようという気持ち、臨機応変さが重要でありこれは全世界共通なのだろうと思いました。

後輩へのアドバイス

実際にその国に足を運び、自分の目で見て、人と会って話をしなければ分からないことがあります。日本にいて、頭で考えても分からないことは、思い切って海外に飛び出して確かめに行きましょう！一生ものの経験になること間違いなしです。

研修支援制度に望むこと

現地にいる間はなるべく毎日どこか施設を訪れること、との決まりがありますが、研修期間に土日を含んでいると、その日開いている施設が少なく、予定を入れるのが難しいのでその点を考慮して頂けるとより有意義な研修になるかと思っています。